2023年1月8日  川越教会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　丸山　勉

生きづらさの中にこそ

［ルカによる福音書4章1～13節］

さて、イエスは聖霊に満ちて、ヨルダン川からお帰りになった。そして、荒れ野の中を“霊”によって引き回され、四十日間、悪魔から誘惑を受けられた。その間、何も食べず、その期間が終わると空腹を覚えられた。そこで、悪魔はイエスに言った。「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。」イエスは、「『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある」とお答えになった。

更に、悪魔はイエスを高く引き上げ、一瞬のうちに世界のすべての国々を見せた。そして悪魔は言った。「この国々の一切の権力と繁栄とを与えよう。それはわたしに任されていて、これと思う人に与えることができるからだ。だから、もしわたしを拝むなら、みんなあなたのものになる。」イエスはお答えになった。「『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある。」

そこで、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて言った。「神の子なら、ここから飛び降りたらどうだ。というのは、こう書いてあるからだ。『神はあなたのために天使たちに命じて、あなたをしっかり守らせる。』また、『あなたの足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手であなたを支える。』」イエスは、「『あなたの神である主を試してはならない』と言われている」とお答えになった。悪魔はあらゆる誘惑を終えて、時が来るまでイエスを離れた。

[１] 既に完成された「救い」の中を

一週間前の日曜日は一月一日・元旦でもありましたので、今日が新年最初のこの場所での礼拝という方もいらっしゃると思います。改めて新年のご挨拶をさせて頂きます。明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い致します。

新年を迎えると、今年の予測や展望など、色々な立場の人が色々なことテレビや新聞、雑誌などで語りますが、まあ、誰もこの先のことはわかりません。けれども、私たち主イエス・キリストにつながっているものは、どんなことがあろうが恐れずに進んで行きたいと思うし、また進んで行けると思っています。なぜなら、私たちは、既に神様が救いを成し遂げて下さった、その中を生きているからです。私たちが教会で知らされることは、この世界のまことの支配者は神様であり、いくら我が物顔にこの世を支配しようとする悪魔的な力が働いているように見えても、もうその力は無力化されている、ということです。サタンは、そのやいばを折られてしまっている。私たちの身の回りの現実は確かに厳しいですし、この世界の戦争的状況はまだ続いてしまうのかも知れません。しかし、聖書でパウロが言っているように、「もし神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵対できますか」（ローマ8:31）と、本当にその通りだと思います。この世界に流されず、目に見えない神様の最終的勝利は既に成ったものと、目の前の事に絶望しないで、この中を進んで行きたいと思います。

［2］ 甘美な悪魔の誘惑とそれに対するイエスの拒絶

今日与えられている聖書の箇所は、その神様の勝利を明らかにしてくれていると思います。ルカ福音書4章の1～13節です。「聖書教育」では、しばらくルカ福音書に記されている主イエス様の生涯から学ぶプログラムになっていますのでそれに沿って行きたいと思います。有名な「荒れ野の誘惑」の箇所です。マタイ福音書の4章にも平行記事があり、若干の違いこそあれ、ほぼ同じ内容です。

この、悪魔によってイエス様が公の生涯のはじめに誘惑に遭われた記事を読む時、私たちはここに、私たちにも襲って来る「悪魔」の誘惑の本質というものを見せられるように思います。イエス様はこれから神の国の福音を宣べ伝えようとしているわけですが、悪魔自らが正体を現し、救い主としての働きをさせまいとしているのだと思います。そして、実に魅力的な価値観をもって、イエス様に囁くのです。誘惑というのは、暴力的なものではなく、いつでも甘美なものです。

イエス様は今、荒れ野の中で40日間何も食べず、空腹の真只中にあります。なぜ40日間か。出エジプト記34:28には、あのモーセがシナイ山で神から十戒を受ける前、40日40夜、飲食なしで過ごしたと書かれています。モーセが神様から直接その言葉を受けたように、今神の子自身が、新しい時代の中に歩みだす、私たちの救いが確かなものとなってゆくための誘惑・試練なのだと思います。これは、もちろん神の子であるイエス様本人への試練でありますが、私たちにも、この世界の中で信仰者として生きていく上で、どこに立たなければならないかを語ってくれていると思います。

サタン・悪魔は、飢えの極みにあるイエスに向かって、「この石に命じて、パンになるようにしたらよいではないか」というようなことを言います。イエス様はそれに対して「人はパンだけで生きるものではない」と、申命記8:3の言葉を用いてその誘惑を退けました。恐ろしい飢えと渇きの中で、パンだけ、つまり肉の糧だけで生きることを拒否したのです。いわゆる「奇跡」は行いませんでした。そしてルカが記すの次の悪魔の誘惑は、「わたしを拝むのなら、この世界の一切の権力と繁栄をみなお前にやる」というものでした。私たちはそんな大それたものは求めないと言うかもしれませんが、どうなのでしょうか？男性であろう女性であろうが、人生の一番の喜びは「認められる」ということではないでしょうか？「権力」とまではいかなくとも、惨めにはなりたくない、というのが本音ではないでしょうか？悪魔は、そこをくすぐるのです。これは、他者との比較の中の生への招きです。これは牧師である私にも迫ってきます。「偉く見られたいと思っていないか」。イエス様はそれに対してきっぱりと言われました。「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ」と。これも申命記6:13からです。三つ目の悪魔の誘惑は、主を神殿の屋根の端に立たせ、「神の子なら飛び降りて見たら良い。天使たちが守ってくれるのだろう？」というようなことを言います。これは、神様を魔法の杖のように自分の道具化する、ということです。奇跡を行わないような神は、使いない神ではないかと。あの十字架の場面でイエス様に対して「もし神の子であるなら十字架から降りてこい。そうしたら信じてやろう」という声があったと書かれていますがそれと同じです。また、例えば東日本大震災の時、このようなことを許す神は神ではない、私たちは神から決別すべきだと言った写真家がいましたが、もしかすると私たちは「もう神はいない」「神に見離された」と簡単に言い過ぎてしまわないでしょうか。不幸と思える出来事＝神はいないことと考えてしまい、都合の良い、自分を豊かにしてくれる神様だけを信じてはいないでしょうか？イエス様は奇跡を求めるこの誘惑に対して、「あなたの神である主を試してはならない」と言われました。これは申命記6:16からの言葉です。

イエス様はサタンからの甘美な誘惑を、古からの神の言葉をもって退けられました。そしてそのことによって、この荒れ野においてイエス様の運命も決まったのです。私たちが思い描きやすい神様像ではなく、私たち自身の荒れ野という現実の中に入り込み、苦難と十字架への道を歩むお方となったのです。

悪魔の誘惑を、御言葉をもって退けられたイエス様は私たちに語ってくれていると思います。これが本当の神様の御心なのだ、神の前に生きるとは、誰もがうらやむような生き方や豊かさを得る道ではなく、貧しくても良いと思える道、人間的な比較において惨めであると思えても心が平安な道、たとえ人から誤解されたり、また奇跡的に病が癒されたりしなくても、もっと大きな光の中に包まれて生きて行くことが出来る道、生きづらさの中にこそ、わたしは共にいるよと。主は、本当には自分の都合の良いようにしか神様のことも考えられないような私たちを愛して、赦して、その私たちに連帯し、罪を負い、あの「苦難のしもべ」（イザヤ53章）となって下さったのではないでしょうか？そして、「あなたもわたしに信頼して、私の後についていらっしゃい」と招いていて下さっているのではないでしょうか。

［3］ 「成人」の信仰者として生きる

D・ボンヘッファーという神学者は、私たちの信仰は「成人した世界」の信仰であるべきと言いました。安易に、奇跡を起こしてくれる神様を求めるのは幼い信仰であって、私たちは「成人」になろう、と言うのです。そしてボンヘッファーは書物の中でこのように書いています。

**「神の前で、神と共に、われわれは神なしに生きる。神はご自身をこの世から十字架へと追いやられるにまかせる。神はこの世においては無力で弱い。そしてまさにそのようにして、ただそのようにしてのみ、彼はわれわれのもとにおり、またわれわれを助けるのである。キリストの助けは彼の全能によってではなく、彼の弱さと苦難による。苦しむ神だけが助けを与えることができる。**」

とても含蓄の深い言葉だと思います。「神は弱い」とボンヘッファーが言うのは、主がサタンの誘惑を退けたからです。それを受け入れたらイエス様はこの世の恐ろしい権力者になったでしょうけれども、それでは救い主ではありません。私たちを愛し、救って下さるために、主はサタンの誘惑を退けて下さり、十字架をご自分の意志で受け取って下さったのだと思います。どんなに私たちは、見捨てられず、愛されていることでしょうか。この愛は、私たちの試練の中、生きづらさの中、惨めさ、また病の中でこそ、良く感じられるものだと思います。これからの一年間、私たちの生活のどんな場面においても、主がいらっしゃらない場所は決してありません！

さあ、これから、主の晩餐式にも与ります。これが本当の「パン」です。私たちを生かす食物です。イエス様の、絶対的な愛を食して、この年もご一緒に進んで参りましょう。お祈り致します。

主なる神様、新しい年をお与え下さり感謝致します。私たちはともするとあなたを自分のイメージの中に閉じ込めてしまうことがあります。その時、いつもイエス様のお姿、またイエス様の言葉に立ち帰らせて下さい。悪魔に勝利され、私たちのために十字架を背負って下さった、これ以上の奇跡はありません。あなたの大きな愛の中を安心して歩ませて下さい。また、この愛がこの世界に、私たちの身近な者たちの中にも確かなものとなってゆくように祈り、そのために私たちをも遣わして下さい。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。